

災害復興におけるコミュニティガーデンの役割： ニューオーリンズ市の事例より

新保 奈穂美*

* 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 博士課程

調査の背景・目的

日本を含む世界中で
災害による深刻な被害
暮らし方・まちのあり方
を見直す必要性

災害後のまちの復興における
コミュニティガーデンの役割



→ どのようなコミュニティガーデンが必要か、
どのように運営すればよいか、先行事例から検討が必要

「コミュニティガーデン」(本発表における定義)：
地目に関わらずある土地の近隣住民がその土地を用い、花や野菜、果物などを栽培したり、イベントを行ったりする場
(参考) American Community Gardening Association による定義
... It can be urban, suburban, or rural. It can grow flowers, vegetables or community. It can be one community plot, or can be many individual plots. It can be at a school, hospital, or in a neighborhood. It can also be a series of plots dedicated to "urban agriculture" where the produce is grown for a market.
(<http://www.communitygarden.org/learn/>)

調査の方法

ハリケーン・カトリーナによる被害を受けたニューオーリンズ市を事例に、

- A) どのようなコミュニティガーデンがハリケーンの被害後に生まれ
- B) どのように運営されているか

を明らかにするために、調査を実施



‘Hurricane Katrina’ による被害 (2005年8月)



浸水範囲：
ニューオーリンズ市域の約 80%
(Knabb et al., 2005)
ルイジアナ州住民の死者数：
971 (Brunkard et al., 2008)
被害総額推定：
1080 億 US ドル
(Knabb et al., 2005)

空き地・空き家の増加
食料品店の撤退 (特に貧しい第 9 区)

現地調査の実施 (2013年10月)

- ・コミュニティガーデン支援組織 (Parkway Partners) へのヒアリング
 - 1) ニューオーリンズ市におけるコミュニティガーデンの概況を把握
 - 2) コミュニティガーデン設立・運営の仕組みを把握
- ・個々のコミュニティガーデンへの訪問
 - 3) 空間面・利用面の特徴を把握

調査の結果

1 ニューオーリンズ市における コミュニティガーデンの概況



2 支援組織の役割

“Parkway Partners” (NPO 組織)

1982 年設立
※ 市の緑地管理に対する予算削減時



理念：
“...to empower residents to improve their communities through the preservation, maintenance and beautification of neutral grounds, urban gardens, green spaces, playgrounds, parks and the urban forest in New Orleans.”
(Parkway Partners ウェブサイトより)

方針：
「自立した活動となるよう、コミュニティガーデンなどを立ち上げる住民を支援する。金銭面の支援は一切しない」
(プロジェクトディレクターへのインタビューより)

支援の内容：
・土地の取得や仲間集め、リーダーの心構えに対する助言
・土壌分析の手伝い
・育てる植物に対する助言、種子などの譲渡

資金調達方法：
ガラ・パーティーやガラ・オークションを通じた寄付
(ニューオーリンズ市の文化である jazz を活用)

3 個々のコミュニティガーデンの特徴 (事例抜粋)

- ① Ms. Marion’s Community Garden
 - ・空き地が少なく、並木の整った通りに立地
 - ・宅地の一区画を利用
 - ・野菜が多く栽培され、ベンチや装飾も多い
 - ・運営主体は不明
 - ・フェンスはあるが、施錠は無し
- ② Our School at Blair Grocery
 - ・空き地が多い、閑散とした通りに立地
 - ・宅地の一区画を利用 (元は食料品店が立地)
 - ・野菜や果樹の他、ヤギ等の動物が多い
 - ・運営主体はニューヨークから移住した教師の男性 (2008 年)。徒歩 1 分の家に居住
 - ・フェンスはあるが、施錠は無し (バナナの木で覆われている)
- ③ Guerrilla Garden
 - ・空き家が見られる、閑静な通りに立地
 - ・宅地の一区画を利用
 - ・栽培スペースと小屋・ベンチ等の設備が同程度 (地域のイベントスペースとしても利用)
 - ・運営主体は Lower Ninth District で活動する NPO (他にもう 1 箇所のコミュニティガーデンを運営)
 - ・フェンスがあり、施錠されている

→ 宅地の一区画を利用している事例が主
→ 野菜の栽培が中心
→ NPO や個人など、地域の住民が主体となって運営

調査のまとめ

- ニューオーリンズ市では、
- A) 地域の住民が、住宅地内の空き地を積極的に活用し、コミュニティガーデンを利用。食糧獲得やイベントの場の目的に供する。
 - B) 支援組織は土着文化を活かした資金調達。その支援のもと、地域住民は自発的かつ自立的にコミュニティガーデンを設立・運営。



・自立して生きていける力を地域住民が、醸成する手段としてのコミュニティガーデン
・地域住民による自立的なコミュニティガーデンの設立・運営をうまくいかせるための、支援組織の重要性